

## 新城市民病院研修レポート

愛知医療センター 名古屋第一病院  
研修医 1 年目

僕は同期研修医のなかで名古屋第一病院のトップバッターとして新城市民病院で研修させていただきました。研修させていただくまでは、まだ一年にも満たない自分が外来や病棟の業務をこなせる自信が全く無く、二年目になってもう少し経験を積んだ状態で研修したいと思っていました。しかし一ヶ月の研修を終えた今は早い段階で新城市民病院で研修できて本当に良かったと思います。

コロナウイルスの蔓延により往診や老健などでの業務に関わることはできませんでしたが、初診外来と救急外来、入院に携わらせていただきました。名古屋第一病院で研修医が関わる外来は救急外来と内科初診外来です。どちらの外来も役割としては専門科への振り分けのためのファーストタッチです。救急外来では帰宅か入院が業務の核です。内科初診外来は治療介入なしで専門科に紹介する形です。どちらの場合でも研修医が経過を見ていくことはありませんが、新城市民病院では帰宅可能な患者を自分で外来フォローするという新しい経験ができました。帰宅の判断はできても、解決に導くことはそれよりも難しいことが多いという印象でした。

また主に救急外来からの入院の業務もさせていただきました。恥ずかしながら一から入院に関わったことがなく、入院時指示などについても考えたことはありませんでした。これまでの回診もとりあえず身体所見をとって世間話をして主治医のアセスメントをなぞるようなカルテを書いていただけです。新城市民病院では上級医の先生方のおかげで、主体的に考え、動けるように何とか頑張ることができました。総合診療科の先生方は幅広い疾患を基本的には他科の介入なしに行っていました。膨大な知識が要求されますが、そこで重要であるのが知識へのアクセスの仕方だと学びました。EBM とは学生の頃から言われてきましたが、その必要性を実感したことはありませんでした。初めて入院患者を診させていただいて、際限なく clinical question が湧き上がってきました。臨床統計として妥当な治療を考え、それを患者背景と照らし合わせ治療選択していくという流れを実践しなければと思いました。EBM の勉強をしっかりとしなければと切に思いました。

退院後の生活像を患者家族と話し合い考え、リハビリを進めていただくという、医療者と被医療者との信頼関係の構築の大切さも学びました。相手の立場になって考えれば、入院経過を知らない家族の不安は募ることは想像に難しくありません。そういう当然とも言えることを自分は見えずに一年間医者をお名乗って恥ずかしい気持ちになりました。初心にかえりました。親切的な医者になります。

最後になりましたが、廣島先生、奥原先生には特にお世話になりました。お忙しい中、様々な経験をさせていただき、多くのことをご教授いただき、多大なる影響を受けました。そして新城市民病院のスタッフの全員に感謝申し上げます。医師になって最も有意義な一ヶ月でした。ありがとうございました。